

創立百五十周年・再興七十周年記念事業が始動

ご挨拶



理事長 圓藤 恭久

本学は令和14年に創立150周年・再興70周年を迎えることとなります。

この周年記念事業は、これまで本学が積み重ねてきた歴史と伝統を振り返り、その歩みを支えてくださった多くの方々への感謝を新たにするとともに、これからの時代にふさわしい教育・研究の充実と、学生が豊かに学び、交流できる環境の



学長 齋藤 平

本学は、令和14年、御遷宮の前年という節目の年に、創立150周年・再興70周年の佳節を迎えます。この記念すべき年に向け、本学では、これまでの歩みを振り返り、未来への新たな一歩を踏み出すための記念事業を計画しております。少子化が進む中、大学には、学生一人ひとりの学びを支えるとともに、充実し

た学生生活を送ることのできる環境を整えていくことが、これまで以上に求められています。本周年記念事業では研究・学修環境等の充実を図り、学生がより快適に、豊かな大学生活を送ることのできるキャンパスづくりを進めてまいります。また、伊勢の地で長年培ってきた学問と文化を次代へ継承し、本学ならではの教育・研究のさらなる発展につなげていきたいと考えております。

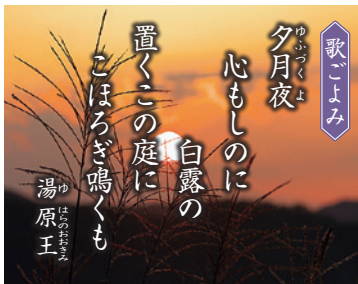
創立150周年・再興70周年を本学の歴史と未来を結ぶ大切な節目として、学生の成長と本学のさらなる発展に資する記念事業を実現してまいります。皆様のご理解と温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

整備を進め、本学のさらなる発展につなげていくための大切な機会でございます。創立以来、伊勢の地において受け継いできた学問と文化を次代へ確実につなぐとともに、周年記念事業を通じて本学の基盤をより強固なものとし、未来を担う学生たちの学びを支えてまいります。

この記念すべき節目を迎えるにあたり、各界、館友、教職員をはじめ、多くの皆様のご理解とお力添えをいただきながら、記念事業を進めてまいりたいと存じます。皆様には、それぞれのお立場から多角的なご意見やご助言を賜りますとともに、本記念事業の趣旨にご理解をいただき、温かいお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます。

皇學館 学園報

第112号
令和8年10月



■注目記事	
アカデミック	2面
全国大学史資料協議会を開催	
カルチャー&スポーツ	3面
東海地区1位で全日本出場 東海学生柔道体重別選手権大会	
イベント&エデュケーション	4面
大杉研究室が小学生対象の プログラミング教室を実施	
	5面
数理教育コース1期生10名が 公立中学校の数学教員合格	
中高トピックス	6面
第64回 皇高祭開催 皇學館高等学校	
スマホ・ケータイ安全教室を実施 皇學館中学校	
	7面
令和9年度 皇學館高等学校募集要項	
アクティブスチューデント	8面
向原悠斗さん(高3)がインターハイ 八種競技で準優勝 ほか	
■シリーズ	
部活動・同好会ファイルNo.3 考古学研究会	

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 | 大学院 | 文学部 | 教育学部 |
専攻科 | 現代日本社会学部 |
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

第1回募財委員会を開催

令和14年に迎える創立150周年・再興70周年に向け、記念事業を推進する募財委員会が発足した。

募財委員会は小串和夫

常任顧問、田中恆清神社本庁総長を始め、顧問11名、委員136名で構成。8月7日に開催された第1回募財委員会には全国から顧問4名、委員42名

が出席した。

会議では、周年を迎えるにあたり実施する記念事業の概要や今後の取り組みについて説明が行われた。記念事業は創立以来、伊勢の地で培ってきた学問と文化を次代へ継承するとともに、学生が学び、交流し、心豊かに過ごせるキャンパスの実現をめざす。



伊勢シティホテルにて催された夕食会

施設整備に加え、貴重な学術資料の調査・保存・デジタル化、研究成果の刊行、展示などを通して、本学が有する知的・文化的資産を広く社会に発信していく。

創立150年・再興70年の節目を単なる周年行事にとどめず、これまで受け継いできたものを確かめ、未来へつないでいく機会とする。その実現に向け、多くの関係者の協力を得ながら、記念事業が本格的に動き始める。

記念事業の主な内容

- | | |
|--------------------|---|
| 1 施設整備事業
30億円 | ●佐川記念神道博物館・附属図書館書庫の拡充 |
| 2 教育研究事業
7千4百万円 | ●情報環境の整備 |
| 3 展示事業
3千5百万円 | ●「皇學館大学五十年史」の刊行(百三十周年以降の20年を中心。各学部学科・附置機関・事務局の部局史を含む) |
| 4 館史編纂事業
3千万円 | ●「皇學館大学五十年史」の刊行(百三十周年以降の20年を中心。各学部学科・附置機関・事務局の部局史を含む) |
| 5 記念式典事業
8千万円 | ●館史資料デジタル化の推進 |
| 総額 32億1千9百万円 | ●「皇學館大学五十年史」の刊行(百三十周年以降の20年を中心。各学部学科・附置機関・事務局の部局史を含む) |
- 1 施設整備事業
●学生大会館新築
(仮称)六角テラス
●大学新クラブハウス新築
●大学3号館研究棟の改修
- 2 教育研究事業
●「訓読註釈 皇太神宮儀式帳」の刊行
●「日本後紀史料」(全8巻予定)の刊行
●資料のデジタル化とオープン化推進
- 3 展示事業
●特別展示「皇學館大学名宝展」の開催
●佐川記念神道博物館所蔵資料(鈴木重胤資料、鈴鹿家資料、久邇家寄贈資料、大嘗祭関係資料等)
●附属図書館所蔵(澤瀉文庫、五葉蔭文庫等)
- 4 館史編纂事業
●「皇學館大学五十年史」の刊行(百三十周年以降の20年を中心。各学部学科・附置機関・事務局の部局史を含む)
- 5 記念式典事業
●慰霊祭、記念式典、記念植樹、祝賀会 など
令和14年4月30日、5月1日を予定

自然災害および伊勢市内における火災被害に関するお見舞い

7月の熊本地震、全国で相次ぐ集中豪雨被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、8月31日に伊勢市岩渕地区・明倫商店街周辺で発生した火災により、被害を受けられた皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

明倫商店街周辺は、本学にとって長く親しみのある地域であり、これまでさまざまな交流を重ねてきた場所でもあります。被災された皆様に心を寄せ、一日も早い復旧と、皆様の平穏な日々が戻りますことを、切にお祈り申し上げます。



まだまだ先のことだと思っていたら、早くも来年のカレンダーが発売される時期になった▼自宅には川瀬巴水の版画、研究室には航空会社発行の風景がそろった▼「暦」と言えば「神宮暦」が知られる。神宮のウェブページには「神宮暦」について「明治16年より迷信的記述を排除し、科学的情報のみを記述した我が国唯一の「正暦」として全国に頒布されました」とある▼近世以前は「暦」に迷信的行動指針や予言が示されたのも、農業・漁業など一次産業が地球の公転をはじめとする自然の影響を強く受けることから、豊作・豊漁を願う、災害から免れることを意識したからだろう▼「神宮暦」以前の「暦」としては、現在の多気町丹生の「丹生暦」が有名である。丹生の暦師として賀茂杉太夫が、代々国司の御博士を担い、「丹生暦」を発行した。のちに「内宮暦」や「山田暦」におされていくことになるものの、「いせごよみ」の発祥としては丹生がその地位にある▼皇大神宮の別宮である「月読宮」は西宮一民の説による「カレンダー神」という解釈はとてもうなづける。伊勢と「暦」の関係は深い。

大学院を改組 3 専攻を統合し、 「総合人文学専攻」を設置

文学研究科は令和 9 年 4 月、これまでの神道学、国文学、国史学の 3 専攻を統合し、「総合人文学専攻」を設置する。各分野の専門性を維持しながら、領域を横断した学際的な教育研究を推進し、現代社会の複雑化・高度化に対応できる研究者の育成をめざす。

従来の 3 専攻では、それぞれの領域における精深な研究が進められてきた一方、学問領域の細分化により、他分野の研究成果が十分に共有されない課題も生じていた。近年は、各専攻の学生が他分野の授業を履修するなど、領域を越えて学ぶニーズも高まっている。こうした動きを踏まえ、3 つの専門領域を総合し、最新の研究動向を共有する新たな学問領域の構築に至った。

総合人文学専攻では、神道学・国文学・国史学を基盤に、漢文学や関係外国史などの知見も生かした研究を展開する。例えば神道と道教の関係など、従来は分断されてきたテーマを横断的に捉えることも可能となる。

また、デジタル化された史資料やネット上の情報が増加する中、その価値や真偽を見極め、学術的知見に基づいて社会へ発信できる人材の育成も重要な課題である。3 分野の知を結集し、建学の精神を継承するとともに、社会の要請に応える研究者の育成を進めていく。

令和 8 年度 夏季フィールドワーク

学科	引率教員	日 程	目的地・方面
国 内			
国 文	大 島 信 生	9/8(火)～9/10(木)	福岡
	岡 野 裕 行	9/8(火)～9/11(金)	東京
	上小倉 一 志 松下 道 信	9/3(木)～9/5(土)	東京
	木 村 尚 志	9/8(火)～9/11(金)	鳥取・島根
	田 中 康 二	9/7(月)～9/10(木)	平泉・松島・日光・深川
	平 石 岳	9/5(土)～9/7(月)	静岡
国 史	遠 藤 慶 太	9/8(火)～9/10(木)	京都
	多 田 實 道	9/8(火)～9/10(木)	九州・山陽地方
	長 谷 川 怜	9/7(月)～9/11(金)	東京
	松 浦 光 修	9/8(火)～9/9(水)	山口
コ ミ	栗 野 理恵子 チエロ デイチエロ 山 山 真 芳 賀 康 朗	9/8(火)～9/11(金)	北海道
海 外			
コ ミ	高 沢 佳 司 玉 田 貴 裕 張 田 貴 磊 豊 住 誠	9/8(火)～9/11(金)	中華人民共和国

令和 8 年度 保護者対象 進路別就職説明会のご案内

保護者対象進路別就職説明会を以下の通り開催させていただきます。進路別に各就職支援担当部署より詳しくご説明いたします。ご参加は予約制とし、専用の予約フォームより受け付けております。申込締切は**10 月28日(水)**、多数のご参加をお待ちしております。

[予約フォームはこちら▶](#)



開催日時●**令和 8 年11月 1 日(日)**
12:00～14:00

受付場所●**皇學館大学 6 号館 1 階**

◆**神社への就職について** **神職養成担当**
場所● 7 号館 4 階 744 教室

◆**教員、保育士への就職について** **教職支援担当**
場所● 7 号館 4 階 745 教室

◆**企業、官公庁への就職について** **就職担当**
場所● 7 号館 4 階 746 教室

※当日、お車でお越しの際は構内駐車場をご利用いただけますが、倉陵祭(学園祭)も同日開催中で台数に限りがございます。公共交通機関でのご来学にご協力をお願い申し上げます。

全国大学史資料協議会を開催

8 月 26 日から 28 日にかけて、本学で全国大学史資料協議会 2 0 2 6 年度総会ならびに全国研究会が開催された。26 日に行われた総会では本学の田浦雅徳名誉教授が令和 5 年に本学附属図書館で見つけた史資料をもとに、「神宮皇學館の大学「昇格」をめぐる」との演題で記念講演を行った。27 日は「大学史資料のデジタル化における現状と課題」をテーマに全国研究会が開催され、活発な質疑応答、意見交換が行われた。

本学研究開発推進センターの松本丘センター長は「大学史資料の管理・研究について多くの知見を得ることができた。本学でも体制の充実に努めてまいりたい」と研究会を総括。創立百五十周年・再興七十周年記念事業のひとつである館史編纂事業に生かしていく考えを示した。

テーマ◆大学史資料デジタル化の現状と課題

- 【基調報告】小川千代子氏(個人会員)
「電子記録の長期保存 ～これからを考える～」
- 【第 1 報告】熊本好宏氏(国士館 国士館史資料室)
「国士館史料の電子化と活用への取り組み」
- 【第 2 報告】渡邊 卓氏(國學院大学校史・学術資産研究センター)
「國學院大学におけるデジタル化の現状 ―校史資料を中心として―」
- 【第 3 報告】村田博俊氏(立命館 史資料センター)
「立命館史資料センター史料のデジタル化状況」
- 【第 4 報告】長嶋健太郎氏(お茶の水女子大学 附属図書館 歴史資料館)
「お茶の水女子大学歴史資料館における大学史資料のデジタル化とデジタルアーカイブ」

田浦雅徳名誉教授 記念講演 神宮皇學館の 大学“昇格”をめぐる



(講演内容より抜粋)

令和 5 年 3 月上旬、本学附属図書館の収蔵庫で資料簿 3 冊が見つかった(①「神宮皇學館大學昇格資料」)、②「神宮皇學館大學昇格資料」③「神宮皇學館大學昇格問題資料 岡田米夫」)。①②には「寄贈 原田敏明殿 昭和四十六年式月八日の角印が捺され、③の表紙裏には「寄贈 岡田米夫殿 昭和五拾二年六月貳九日」と記されている。神宮皇學館館長(再興後の初代学長)を務めた平田貫一が政府関係者に充てた大学昇格要望書の自筆草案など点数にしておよそ 60 点。これにより、昭和 15 年の神宮皇學館の大学「昇格」に至る詳細な経緯が明らかとなった。

明治 15 年に創設された神宮皇學館は明治 36 年に官立専門学校となる。大正 7 年、大学令が公布されると、神宮皇學館で昇格の動きが強まる。同年、本科生原田敏明・鍋木勢岐らを中心に「神道学会」が発足。神宮皇學館関係者から「神道研究の確立」を根幹に据えた「神道の最高学府(神祇大学・神都大学)」への昇格を求める機運が高まった。

昭和 10 年代、伊勢を聖地化する「大神都聖地計画」を追い風に昇格運動は本格化。関係者の懸命な尽力により、実現に向け前進。しかし、内務省管轄のままで法的に昇格が不可能と判断され、文部省へ移管して大学を「新設」する形式がとられた。これにより、内務省・神宮皇學館の立場から見れば神宮皇學館の「大学昇格」、文部省からは「神宮皇學館大學の創設」となった。移管の過程で、大学昇格の最大のモチベーションであった「神道の最高学府」との理念は「我固有の教学」へと表現が修正された。それでも関係者の強い要望により「皇學館」の名称は堅持され、昭和 15 年、文部省直轄の神宮皇學館大學が開設されるに至った。

小川真由子教育学科准教授が選出

令和 7 年度 優良教育実践

授業改善等に顕著な貢献をしたとして、「令和 7 年度優良教育実践」に教育学科・小川真由子准教授が選ばれた。

教育学科 小川真由子 准教授

実技演習とアクティブ・ラーニングの活用による保育士養成授業の改善



小川真由子准教授は保育士養成における実践的な判断力と対応力の育成をめざし、多様な教材を活用した授業改善と教育方法の開発に取り組んでいる。手洗いチェッカーで洗い残しを可視化し、衛生行

動を視覚的・体験的に理解させたほか、心肺蘇生トレーニングでは客観的なデータに基づくフィードバックを行い、技能の向上を促している。また、バイタルサインベビーや妊婦体験ジャケツトなどを用

いたシミュレーション教育も導入。単なる体験に終わらせず、学生同士の相互評価やデイスカッション等を通して、「なぜその対応が必要か」「どのように判断したか」を言語化する学びを重視している。学生の気付きや課題を授業改善につなげながら、知識や技術の習得にとどまらず、現場で求められる実践的な判断力と対応力を備えた保育者・教育者の養成に取り組んでいる。

皇學館 34 人物列伝



山内 益次郎

やまうち ますじろう ●大正 7 年長崎県生。昭和 32 年早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。白梅学園短期大学教授を経て、昭和 53 年皇學館大学教授。1 9 1 8 ～ 2 0 0 9。

枕草子と今鏡を専門とした中古文学の研究者であった山内は、おのずから国文法概説も担当していた。古典文法は平安時代の文法を規範として整理されているからである。

今も制度として置かれているクラス担任は、当時、とくに倉陵祭の出し物となっていた樽神輿の製作と当日の担ぎ手を集めることに腐心した。学生たちに事あるごとに声をかけ、進捗を把握し、督励して当日を迎えた。大学教員が、特別活動を指導するという役割を果たしていた。

同じように研究旅行もクラス単位で実施されるため、その取りまとめの責任はクラス担任だった。当時の大学生は見なし成人とされ、飲酒も許容されていた。山内の受け持った 1 年生のクラスでは、飲酒して高揚した学生が、宿所の部屋の壁を壊すという事件も起きた。温厚な紳士であった山内には茶目っ気を発揮する一面もあった。

親身な卒論指導

「活語断続譜」で知られる鈴木胤(おの)が取り上げられた。このとき、「これは狼ではなく、狼ですよ」と言っている学生の笑いを誘ったが、学生の反応は鈍かった。繰り返して「これは狼ではなく、狼ですよ」。3 度目によりやく学生が笑う場面なのかと気づいて笑ったとき「やっとなにわかったか」と安心したように言った。

その頃の卒業論文は、審査が極めて厳しかった。後に大学認証評価で学者養成のカリキュラムであるとして改善が求められるほどだった。どこか一つでも独創的な新見がないと卒業論文は不合格とされた。

ある学生があまり相談にいかず、ようやく相談に行ったとき「全然来ないから心配していたんですよ」と山内はほっとした顔をした。いわば、放任主義的な卒論指導が専らだった時代に、丁寧で親身な山内の指導に多くの学生が救われて、卒業していった。

国文学科教授 齋藤 平

学生寮交流会で 親睦深める



金剛證寺の前にて記念撮影

9月17日、学生寮交流会が行われ、精華寮13名、貞明寮21名、駅伝競走部23名の計57名が参加した。普段は交流する機会の少ない学生同士が親睦を深め、楽しいひとときを過ごした。

午前11時に寮を出発した一行は、夫婦岩の参道にある「めおと横丁」を訪れ、昼食とともにした。その後、金剛證寺を参拝し、学生寮アドバイザーでもある国史学科の多田實道教授による講話を拝聴した。講話では、伊勢神宮の鬼門を守る寺として知られる金剛證寺の歴史や、なぜ山頂に建立されたのか、伊勢参りとの関わり、「お伊勢参らば朝熊をかけよ朝熊かけねば片参り」といわれる風習などについて解説があり、学生たちは興味深そうに耳を傾けた。その後、本堂の参拝を含めて散策を行った。

続いて朝熊山展望台へ移動し、景色を眺めながら散策。寮生たちは会話を交わしながら親交を深め、午後2時に寮へ戻った。寮の枠を超えた交流を通して、寮生同士のつながりを育む機会となった。



朝熊山展望台にある「天空のポスト」にて。このポストから手紙を出すと、伊勢で唯一「伊勢の消印」が押される



多田教授の講話を通して学びを深める学生たち

館友会全国大会に120名が集う



8月30日、北海道札幌市の札幌パークホテルで令和8年度皇學館館友会全国大会を開催した。当日は神宮大宮司代理立野智洋神宮禰宜、学校法人皇學館園藤恭久理事長をはじめ多くのご来賓をお迎えし、約120名もの館友が集う盛会となった。

総会では5件の上程議案が全て承認され、次年度の全国大会は三重県で開催することが決定した。続く記念講演会では「明治天皇の聖徳と北海道開拓」と題し、芦原高穂館友会北海道支部長が北海道開拓の苦難の歴史を熱く語られ、大いに観衆を魅了した。

懇親会では旧交を温め合い、歓談も盛り上がった。その熱気は精華寮寮歌斉唱時に最高潮に達した。その後も和やかな交流が続くなか閉会の時間となり、名残惜しくも令和9年度館友会全国大会三重県大会での再会を期して散会となった。 文責：館友会本部事務局

Culture & Sports カルチャー＆スポーツ



選手層の厚さを印象付けた今大会

8月29日にメディアアス体育館ちた(愛知)で開催された東海学生柔道体重別選手権大会において、本学柔道部が目覚ましい成果を挙げた。

個人戦では、全7階級中6階級で決勝に進出する快挙を達成。優勝4名、準優勝3名、3位3名と圧倒的な戦績を収め、入賞した10名全員が全国への切符を手にした。また、各階級の上位入賞者の成績で争う全日本学生柔道体重別団体優勝大会の東海地区選考でも本学は54点を獲得。2位の愛知大学(26点)を大きく引き離し、首位通過を果たした。大会後の報告会で佐藤武尊部長は、「全日本でも活躍し、皇學館の名を日本、そして世界へ発信できるよう精進したい」と全日本舞台への意気込みを語った。

選手層の厚さを印象付けた今大会

入賞した10名は、9月26・27日に日本武道館で開催された全日本学生柔道体重別選手権大会に挑んだ(結果は次号で報告)。さらに10月24・25日には、ベイコム総合体育館(兵庫)で行われる全日本学生柔道体重別団体優勝大会へ東海地区代表として出場することも決定している。全国の強豪を相手に、さらなる躍進が期待される。

東海学生柔道体重別選手権大会入賞者 (全国大会出場選手)

66kg級	優勝	若谷 快(教育4)
73kg級	優勝	鬼塚 勇 心(教育4)
	3位	竹村 賢(現日4)
81kg級	優勝	奥村 慶 史(現日4)
	3位	伊藤 朔 也(現日2)
90kg級	準優勝	安田 和 真(現日4)
	3位	井上 寛 仁(教育3)
100kg級	準優勝	西田 滉 太(現日1)
	優勝	井野川 幹太(現日3)
100kg超級	準優勝	小川 司 瑛(現日3)

東海地区1位で全日本出場 東海学生柔道体重別選手権大会

Global グローバル

8月7日から30日にかけて、ニュージーランド・ワイカト大学で夏期研修を実施した。General English(一般英語)コースで日常生活で使う英語を中心に学ぶとともに、現地での生活や交流を通して実践的な英語に触れた。参加した学生にとって、英語力を高めるだけでなく、異文化に触れ、新たな気付きや学びを得る機会となった。

間違いを恐れずに

掛橋 心 菜(国文1)

今回のニュージーランド研修を通して、英語の知識だけでなく、実際に英語を使って生活することの大切さを学んだ。出発前は海外での生活や英語での会話に不安があったが、現地で過ごすうちに、最初は聞き取れなかった英語が少しずつ理解でき、自分から話しかけられるようになった。

積極性が大事

北 橋 諒 也(コミ2)

特に印象に残っているのは、現地の学生との交流である。一緒にスポーツをしたり、食事や遊びに出かけたりする中で、教科書では学べない自然な英語に触れることができた。会話がうまく伝わらないときには、聞き返したり別の表現に言い換えたりして、間違いを恐れずに話す大切さを実感した。

今回のニュージーランド研修で最も強く感じたのは、英語力以上に「自分から動く」大切さである。英語に自信がなくても、完璧な文法にこだわらず、まず話しかけてみることを意識した。日本人学生だけでなく現地の学生にも積極的に声をかけたことで友人が増え、カフェやレストランなど現地のお

異文化に触れ視野を広げた3週間

令和8年度ニュージーランド・ワイカト大学夏期研修



掛橋さん(左)と北橋さん

オーストラリア・ローズヒル校の生徒10名と交流

皇學館高等学校・中学校



英語と笑顔が飛び交った交流授業

9月14日、本校の姉妹校であるローズヒル校から男子生徒10名が来校。高校で歓迎式と授業への参加を行った後、中学校3年生と交流授業を実施した。交流授業ではグループに分かれ、自己紹介を交えながら英語で会話を楽しんだ。その後は調理室へ移動し、日本の食文化に触れる体験として「巻きずし」と「あおきみそ汁」作りに挑戦。本校生徒はジェスチャーも交えながら英語で作り方を説明し、互いに協力しながら調理を進めた。完成後は一緒にランチを囲み、会話を楽しんだ。

2時間という短い時間ではあったが、英語でのコミュニケーションを実践するとともに、互いの文化に触れ、親睦を深める貴重な機会となった。本校生徒にとっても、日頃の学習の成果を生かし、言葉の壁を越えて交流する楽しさを実感する一日となった。

Event & Education
イベント&エデュケーション

令和8年度 皇學館高等学校
同窓会総会・懇親会を開催



親交を深めた同窓会総会・懇親会

8月1日、ザ・オレンジガーデン五十鈴川において、皇學館高等学校同窓会総会及び懇親会が開催された。当日は同窓会役員をはじめ、歴代の同窓会会長並びに多くの同窓会員が来場した。

総会は上村浩規幹事長(第19期生)の開会の辞に始まり、今期より会長に就任した美濃松謙会長(第25期生)、角屋貴久校長がそれぞれ挨拶を行った。その後、美濃会長を議長に協議事項が挙げられ、小塚邦代教頭(第18期生)から前年度及び今年度の各種事業報告や計画案の説明、荒木徹事務長から決算報告と予算案の説明がなされた。挙げられた事項は慎重に協議され、総会は滞りなく終了した。

続いて懇親会に移り、美濃会長及び角屋校長の挨拶に引き続き、駒田具夫初代会長(第1期生)より乾杯のご発声をいただいた。ピュッフェ形式の食事に舌鼓を打ちながら各所において交流がなされ、会場は和やかな雰囲気にも包まれた。また、新会員の第61期生も列席し、世代の枠を超え、話に花を咲かせた。

最後に森大亮第11代会長(第19期生)よりお言葉をいただき、一本締めで閉会となった。

皇學館DAY2026を開催



会場も一体となり盛り上がった定期演奏会

シルバーウィークの最終日となる9月23日、皇學館大学・皇學館高等学校合同の「皇學館DAY2026」が開催された。三重県総合博物館MieMuではコーポレーション・デーとして、教育の一端に触れられる「学び体験プログラム&進学相談会」を実施。子どもを中心に1079名が訪れ、多彩なプログラムを通して学びや文化に親しんだ。



装束を身に着ける「なりきり神職体験」



伊勢たくあんと伊勢茶を味わった「いせたくあんでおむすびを作ろう」

MieMuの基本展示も無料開放され、来場者はそれぞれの関心に合わせて展示や体験を楽しんだ。

さらに三重県文化会館大ホールでは皇學館高等学校吹奏楽部による第19回定期演奏会を開催。クラシックからポップスまで幅広い曲目を披露し、会場を華やかな音色で包んだ。本学の教育・文化活動を身近に感じていただく一日となった。



ドローンについて説明する学生

大杉教授は「文部科学省プログラミング教育の手引きの「F分類」の一事例として、わが国の教育発展の一助となれた」と述べ、サポートを務めた学生スタッフも「学校教員をめざす者として、子どもたちのプログラミング的思考の発展の過程を実感できた」と話し、今後の活動に意欲を見せた。



擬革紙の工作に取り組む様子



謎解きに挑戦する親子



花押の歴史を学ぶ参加者

教育学部の大杉成喜研究室は8月、伊勢市教育委員会の後援を受け、伊勢市在住の小学生を対象に「プログラミング教室」および「ドローン編隊飛行プログラミング教室」を開催した。当日は研究室の学生が指導や活動のサポートを担った。

8月5・6日に実施した「ちいさいおともだちのためのプログラミングきょうしつ」は初級・中級に分かれて行われた。参加児童は「お弁当を作ろう」「モグラたたき」といった課題に挑戦。楽しみながら、プログラミングの基礎を学んだ。

8月10・11日には小学5・6年生を対象にドローン編隊飛行プログラミ

ング教室を実施した。初日は思い通りに飛行させられない場面もあったが、2日目には飛行距離や角度、命令の順序など改善を重ね、目標地点への飛行に成功した際は達成感に満ちた表情を見せていた。

今回は、以前から同研究室と連携して活動する皇學館中学校未来理工部の1年生2名と、探究活動の一環として参加した皇學館高校生2名も加わり、小学生とともにプログラミングを体験した。未来理工部とは文化祭での連携も計画されており、さらなる交流の広がりが見込まれる。



学生が参加者をサポート

大杉研究室が小学生対象の
プログラミング教室を実施

親子教室と
花押のワークショップが大好評
佐川記念神道博物館「夏休み親子教室」

佐川記念神道博物館にて7月25・26日と8月4日、親子教室および一般向けワークショップが開催された。7月26日と8月4日の親子教室には計48組131名が参加した。26日は本学芸員課程の履修生が企画・運営を担当し、「伊勢みやげにチャレンジ! 擬革紙職人になろう!」を実施。かつてからの定番土産である擬革紙の歴史を学び、工作を行った。「親子で楽しく参加できた」「学生の対応が親切だった」と好評で、学生にも貴重な実践の機会となった。4日は同館学芸員と神道研究所員による「怪盗Sからの挑戦状」を開催。展示室に散りばめられた問題を解きながら博物館に親しんでもらう企画で、「設定が作り込まれていて楽しかった」などの感想が寄せられた。

また7月25日には、一般対象のワークショップ「オリジナル花押を作ろう!」を行い、33組61名が参加した。大学院生の横山大樹さん(博前・国史2年)による花押の歴史解説の後、学芸員の指導のもと消しゴムハンコで自作の花押を完成させた。参加者は歴史の奥深さや創作の難しさを実感しつつ、「自分で作れると知り驚いた」と感想を述べ、満足度の高い教室となった。

オープンキャンパス・
オープンスクールが盛況

大学オープンキャンパスと高校オープンキャンパスがそれぞれ開催され、多くの中高生や保護者が来場した。

大学オープンキャンパスは8月8・9日に開催。8日は約700名、9日は約600名が参加した。8日は高校1・2年生を中心に、体験型プログラムや模擬講義、学食体験、入試説明会、キャンパスツアーなどを実施。9日は高校3年生を中心に、AO入試対策セミナーや入試説明会、キャンパスツアーを行った。参加者は大学での学びやキャンパスの雰囲気に触れながら、それぞれの進路について考える機会とした。今回は「秋のキャンパス体験DAY」として、10月25日に開催予定である。

高校オープンスクールは8月1・2日と2日間にわたり開催され、計1010名(中学生701名、保護者309名)が参加した。全体会では学校・入試説明のほか、生徒代表による学校紹介や歓迎コンサートを実施。吹奏楽部とダンス部が演奏やパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げた。校舎見学、シールラリーやクラブ見学、学食体験、個別進学相談会なども行われ、参加者は校内を巡りながら、学校生活や部活動の様子を身近に感じたようだ。生徒との交流を通して、入学後の学校生活を具体的にイメージする機会となった。



①教育学科模擬講義
②神道学科体験プログラム
③博物館体験コーナー



④校友会による学校説明
⑤歓迎コンサート
⑥シールラリー

特別企画 数理教育コース1期生座談会

数理教育コース1期生10名が
公立中学校数学教員に

三重県で数学教員をめざせる新たな選択肢として令和5年に誕生した本学教育学部の数理教育コース。今年度の公立学校教員採用試験では、1期生10名が中学校(数学)に合格した。数学の専門性を深めるとともに、他者と学び合い、自ら考え行動する力を育む数理教育コースの学びを通して学生たちはどのような教師像を描くようになったのか。1期生の北川結唯さん、山路彩生さん、上野祐一准教授に話を聞いた。



「数学教員をめざしたきっかけを教えてください。」

山路●母が小学校の教員だったこともあり、幼い頃から教職が身近な存在でした。もともと数学が好きだったことに加え、新設されたばかりの数理教育コースなら、自由で伸び伸びとした環境で学べそうだと感じて進学を決めました。

「気付く力」を養う実践的な授業

数理教育コースで印象に残っている授業は何ですか？

山路●「数学科教育法」の授業です。グループで模擬授業をつくるのですが、指導方法について仲間と議論を重ねる中で、授業づくりはもちろん、周りと相談しながら考える力」が鍛えられました。同じテーマでも人によって全く異なる視点があることを知り、とても面白かったです。



山路彩生さん

北川●私も「数学科教育法」が強く印象に残っています。中学・高校で習った解き方をもう一度捉え直し、「日常のどんな場面と結び付ければ分かりやすく伝えるか」を徹底的に考えました。当たり前だと思っていた解き方

外にもさまざまなアプローチがあることに気付かされました。

「実践的な学びは採用試験や「めざす教師像」にどう生きましか？」

山路●意見を交わし合う中で、自分にはなかった視点を柔軟に取り入れる姿勢が身に付きました。また、出前授業などを通して、実際の現場で子どもたちと触れ合いながら授業を組み立てた体験も貴重な経験になりました。

北川●解き方だけでなく、「なぜこの説明をするのか」「どのように考えてほしいのか」という教師側の意図を考えるようになりました。自分が当たり前だと思

っていた数学の考え方を、相手に伝わる形に置き換える経験が、教員をめざす上でも生きたと感じています。

上野先生は指導の中でどのようなことを意識されています

か？

上野准教授●学生たちはこれまでずっと「教わる側」でした。それが教える立場に回ると、「伝える」と「伝わる」はまったく別物だということに気付きます。その難しさを実感する中で、自ら気付く力を育ててほしいと考えています。

「説得」と「納得」も違いますよね。説得されても、人は受け身になりがちです。でも、自分で納得することができれば、そこから主体的に動き始めます。数理教育コースでは、将来教壇に立つ学生自身が、まさにそうした学びを経験しています。

子どもたちに10を教えるのではなく、1の気付きをきっかけに、自ら学びを進めていけるようにする。そんな学びの伴走者になれる教師をめざしてほしいと思います。

「つまづいた経験」が強みになる

数理教育コースでの学びを経て、ご自身の教師像に変化はありましたか？

山路●最初は何でも答えられる「完璧な教師」になりたいと思っていました。でも、さまざまな学生と一緒に学ぶ中で、1つの教え方が全員に合うわけではなく、実感しました。今は、自分自身も学び続け、周りからも学ぶことのできる教師になりたいと考えています。

北川●以前は、教師は教壇に立つて教える人というイメージでしたが、授業を考える経験を重ねる中で、教師は一方的に教えるのではなく、子どもたちが「自分から学びたい」と思えるような場や環境を整える存在なのだと気付きました。



北川結唯さん

アットホームな環境と、広い学びの機会

教員や仲間との距離の近さも、このコースの大きな魅力ですね。

出前授業やCLL活動など教室を飛び出して学ぶ機会も豊富で、自分から動けば動くほど学びを広げられる恵まれた環境でした。北川●自分のゼミ以外の先生にも気軽に相談できるオープンな雰囲気があります。だからこそ、疑問をうやむやにせず「聞いてみよう」「やってみよう」と思えました。バックグラウンドの異なる仲間とのグループワークも、毎回新しい刺激に溢れています。

数理教育コースを一緒に創り上げていく

数理教育コースをめざす人へのメッセージをお願いします。



上野祐一准教授

山路●自分なりの目標や「こういう教師になりたい」という理想があれば、先生方が一緒に考え、応援してくれる大学です。自分から積極的に動いて、いろいろなことに取り組んでほしいです。北川●自分の中で、めざす教師像を持ってほしいですね。私自身は、子どもたちのことを第一に考え、一人ひとりに寄り添いながら行動できる教師になりたいと思っています。

本学には、CLL活動をはじめ、さまざまな学びの機会があります。自分から一歩踏み出して動くことで、授業やゼミだけでは得られない学びにも出会えます。自分なりの目標を持って、いろいろなことに挑戦し、経験を積んでほしいと思います。

上野准教授●本コースには、AO入試など多様な入試方式を通じて、社会人経験者をはじめ、さまざまな背景を持つ学生が集ま

山路●先生方との距離が近く、数学の疑問はもちろん、困りごとがあればすぐに相談できます。

令和8年度 三重県教員採用試験の合格状況

本学は既卒者を含め126名の合格者を輩出した。本年度は数学の免許課程を設置して初めての採用試験であったが、中学校で8名が現役合格を果たした。教育学科の数学教員による特別指導に加え、各対策講座や教職アドバイザーによる指導の強化・充実を図った成果といえよう。さらに、倉志会・つばさの各勉強会も活発に行うなど、万全の態勢で支援したことが実を結んだ。

小学校は74名(現役40名)が合格し、三重県全体の合格者に占める本学の割合は33.9%となり、中学校・高等学校では52名(現役21名)と過去最多の人数が合格を果たした。3年生受験では小学校に91名、中学校・高等学校は38名が合格した。

合格者占有率は、小学校(15年連続)、中学校・高等学校及び3年生受験において三重県トップとなった。

また、公立幼保職は三重県で1名が合格、6市9名(桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市)が現役合格している。まだ選考途中の自治体もあり、ひとりでも多くの学生が現役合格できるよう支援を強化している。

「学修者本位の教育の実現」に向け
教員と学生が意見交換

学生と教員が大学での学びや学生生活について意見を交わす座談会が9月18日に開催された。本座談会は、



第3期中期行動計画に掲げる「学修者本位の教育の実現」に向けた具体的施策の一環として、学生からカリキュラムの内容や学修方法、学修支援、学修成果などについて幅広く意見を聴取することを目的に実施したものである。

当日は各学部の学生と教員が授業や学修方法をはじめ、教員による指導・支援、正課外の活動、施設・設備、学内情報の提供など、大学生活に関わるさまざまなテーマについて意見を交換した。学生からは、日頃の学修や大学生活を通して感じていることや、より良い学びのための提案など、率直な声が寄せられた。

教員からも学生の意見を受け止めながら、学修環境や授業方法、支援のあり方などについて意見が交わされ、双方の視点から教育・学修環境を考える機会となった。

高校新校友会役員決定

第64期校友会(生徒会)本部役員立会演説会が行われ、下記の2年生3名が選ばれた。

総務委員長 塚本 真優斗さん



総務委員長として学校全体が明るく、皆さんが気持ちよく過ごせる環境を作っていきたいと考えています。そのために委員会のみんなと協力し、一人ひとりの意見を大切にしながら、責任を持って仕事に取り組んでいきたいです。皆さんから信頼される総務委員長をめざし、積極的に動いていきます。

副総務委員長 上 田 開 斗さん



皆さんが楽しめる年間行事やイベントを企画して、皇學館高等学校でよかったと思ってもらえる学校づくりをしていきたいと考えています。校友会での話し合いを徹底して、皆さんの期待に応えられるようつとめていきます。

副総務委員長 金子 乙 羽さん



校友会役員として、何事にも責任を持って取り組み、自分から積極的に行動することを心掛けたいです。皆さんと協力し、笑顔あふれる学校づくりに貢献できるように一生懸命頑張ります。

第64回 皇高祭を開催

テーマは「CROSS BORDER ～世界の多様性を、私達のカルチャーに～」

9月17、18日の両日、「第64回 皇高祭」が開催された。今年のテーマは「CROSS BORDER ～世界の多様性を、私達のカルチャーに～」。1日目は皇學館大学記念講堂で祭典を行い、厳かな雰囲気の中で開幕した。その後、各クラス・クラブが展示の見どころを紹介し、吹奏楽部による演奏も披露された。有志の生徒が指揮を体験する「指揮者コーナー」では会場が大いに盛り上がった。

午後には、バッテリーズ、丸亀じゃんご、おたまじゃくし中西の3組による「吉本お笑いステージ」を開催。本校卒業生のバッテリーズ・寺家さんも登場し、後輩たちを沸かせた。最後にはサインを懸けたじゃんけん大会も行われ、盛況のうちに幕を閉じた。



厳かに執り行われた祭典

2日目は校内を会場に、1・2年生19クラスとクラブによる展示のほか、パフォーマンスを実施。テーマに沿って工夫を凝らした企画が校内を彩り、キッチンカーも多くの生徒でにぎわった。体育館では有志による楽器演奏やダンス、カラオケなども行われ、ライブさながらの熱気に包まれた。

総務委員長の塚本真優斗さんは皇高祭の魅力を「祭典から始まるなど他校にはない新しい経験ができる点」と話す。バラエティ豊かなクラス展示に加え、バンド演奏やダンス、カラオケなど、生徒自らが企画する多彩な催しも見どころの一つだ。



上／家庭部ではクッキーを販売
下／クレープに舌鼓

「音響技術の方々も来てくださり、ライブのような雰囲気で楽しめる」といい、生徒が主体となってつくり上げる皇高祭の特色を語った。2日間、生徒同士が協力しながら個性とアイデアを発揮した皇高祭となった。

学びと体験で進路を見つめる

1・2年生がサマーセミナー開講



90分の集中授業に取り組む2年生

夏季休業中、1・2年生がそれぞれサマーセミナーを実施した。学習に集中して取り組むとともに、大学見学や探究活動、仲間との交流を通して、進路や今後の学びについて考える機会となった。

2年生は8月17日から19日まで、大阪府堺市のビッグ・アイ(国際障害者交流センター)を拠点に2泊3日の研修を行った。国語・数学・英語の学習に加え、泉ヶ丘駅周辺の再開発について探究し、夜にはクイズ大会で仲間との交流を深めた。最終日は近畿大学東大阪キャンパスを訪問。広大なキャンパスや施設を見学し、学食やガレージでのものづくりも体験した。参加した亀田和奏さん(2年)は「授業は90分と長かったが、レクリエーションや仲間との時間、おいしい食事に励まされ、頑張ることができた。最終日に訪れた近畿大学東大阪キャンパスは甲子園球場16個分という広さで、充実した設備に驚いた。また、キャンパスで皇學館高等学校の卒業生の姿を見かけ、大学生活への夢も膨らんだ。3日間を充実して過ごせるよう工夫してくださった先生方、仲間感謝し、これからも進路実現に向けて努力していきたい」と振り返った。

1年生は2日間の日程で実施。国語・数学の講義に取り組んだほか、英語ではネイティブ教員によるアクティブラーニングを体験した。英語による謎解きやミニプレゼンテーションに楽しみながら挑戦し、主体的に学ぶ姿が見られた。最後にはリフレクションと自主学習を行い、学びや今後の課題を確認した。

学年ごとに特色あるプログラムを通して学習への意識を高め、進路について考える充実した活動となった。

大学の学びに触れ、未来を描く

3年生が皇學館大学見学

9月17日、皇學館中学校3年生21名が皇學館大学を訪れ、大学の学びや入試、施設について理解を深めた。

広報担当者による大学概要の説明に続き、教務・入試担当者から大学の講義や入試制度について説明を受けた。大学では、将来の目標に合わせて自分で時間割を組むことなど、高校とは異なる学びの仕組みを知り、自身のキャリア形成に向けて早い段階から将来を思い描くことの大切さを学んだ。また、さまざまな入試方式があることや、大学を選ぶ際には、各大学が掲げる理念と自身の価値観やめざす方向性を照らし合わせる 것이重要であることについても理解を深めた。



村瀬教授の講義を受ける生徒たち

その後、総合体育館や祭式教室などの施設を見学。続いて、教育学科の村瀬雅俊教授による「宇宙の不思議に挑む人類の叡知：数学と物理学、人文・科学哲学の融合への挑戦」と題した模擬講義を受講した。宇宙を題材に、数学や物理学、人文・科学哲学



教務担当による説明に聴き入る生徒たち

を横断して考える講義を通して、科学の奥深さや面白さに触れるとともに、日頃の授業で学ぶ知識がどのようにつながっていくのかを実感する機会となった。受講した大野真靖さんは、「世の中にあるさまざまな問題は、一つの解決方法で考えるのではなく、さまざまな方面から見るのが大切だとわかりました」と話し、進学への関心を深めた様子だった。

スマホ・ケータイとの「付き合い方」学ぶ

「スマホ・ケータイ安全教室」を実施

「携帯電話やインターネットの危険性を正しく理解し、安全な利用方法を身に付ける」との目的のもと、KDDI(名古屋)から専門の講師を招き、「スマホ・ケータイ安全教室」が開催された。

今回の講義は、「SNSの不適切な利用」「出会い系や犯罪系の誘い」「スマホ依存症」といった特に現代の中高生が直面しやすい3つのリスクを重要な柱として展開された。それぞれのテーマごとに具体的な事例を交えた動画が上映され、生徒たちは身近に潜む危険を、リアリティ



示唆に富んだ講義に耳を傾ける生徒たち



グループでの見解を述べる生徒

をもって受け止めることができた。動画視聴後にはグループワークが取り入れられ、生徒同士で協力しながら動画内の行動のどこに間違いやリスクがあったのかを分析・議論し、主体的に理解を深めていく姿が見られた。

1時間の講義を通じて、生徒たちは日常的に使用しているコミュニケーションツールの背景にある「公開性」「拡散性」「記録性」等の危険な側面を改めて強く認識した。便利さの裏にあるリスクを正しく把握した上で、トラブルを未然に防ぎ、今後の生活でより良い「付き合い方」を実践していくための貴重な学びの機会となった。

イベントカレンダー

各講座の詳細は本学ホームページでご確認ください。
🕒時 📍所 (🏫本学 🏠他) 💰料金 👤対象 📅予約 🗨️問合せ先

10月

24土

神道博物館教養講座 第2回
松坂商人 長谷川家の文芸活動

講師 扇野耕多氏(特定非営利活動法人松阪歴史文化含学会員)

🕒14:00～15:30 📍佐川記念神道博物館 講義室

🆓無料 🏠一般

📌必要 ※開催日の3日前までにお申込みください。
(先着順、各回定員60名)

電話、メールからのお申込みも可能です。

📍佐川記念神道博物館 [申込フォーム](#) 

(電話)0596-22-6471
(FAX)0596-22-6463
(mail)oyako@kogakkan-u.ac.jp

30金

NIPPONの原点を学ぶ 三重の魅力発信セミナー
(三重県生涯学習センター×皇學館大学)
伊勢の海と神々の祭り
―海や浜で行われる神事から、
伊勢のもつ「清浄性」に注目する―

講師 新田恵三(文学部助教)

🕒19:00～20:30(18:30開場)

📍三重テラス コミュニティスペース(東京都)

受付終了

11月

21土

神道博物館教養講座 第3回
ギャラリートーク(展示案内)

講師 浦野綾子・小林郁(研究開発推進センター准教授)

🕒1日2回 ①10:00～11:00 ②13:00～14:00

📍佐川記念神道博物館 展示室 🆓無料 🏠一般

📌必要 ※開催日の3日前までにお申込みください。
(先着順、各回定員60名)

電話、メールからのお申込みも可能です。

📍佐川記念神道博物館 [申込フォーム](#) 

(電話)0596-22-6471
(FAX)0596-22-6463
(mail)oyako@kogakkan-u.ac.jp

23月祝

よんぶんセミナー～皇學館大学公開講座～ 第3回
壬申の乱と四日市
―大海人皇子はこの地でなにを思ったか?―

講師 荊木美行(研究開発推進センター教授)

🕒13:30～15:00 📍三浜文化会館 視聴覚室

🆓無料 🏠一般 📌必要(お申込みは10/14(水)から)

📍四日市市文化会館(三浜文化会館内の仮事務所)

059-354-4501(受付時間9:00～19:00)

<https://yonbun.com/ws/>

休館日:火曜日(ただし祝日の場合は開館し、翌平日閉館)

28土

神道博物館教養講座 第4回
本居宣長『玉勝間』始末

講師 田中康二(文学部教授)

🕒14:00～15:30 📍佐川記念神道博物館 講義室

🆓無料 🏠一般

📌必要 ※開催日の3日前までにお申込みください。
(先着順、各回定員60名)

電話、メールからのお申込みも可能です。

📍佐川記念神道博物館 [申込フォーム](#) 

(電話)0596-22-6471
(FAX)0596-22-6463
(mail)oyako@kogakkan-u.ac.jp

令和9年1月

23土

よんぶんセミナー～皇學館大学公開講座～ 第4回
四日市の古文書を読む

講師 谷戸佑紀(文学部准教授)

🕒13:30～15:00 📍三浜文化会館 視聴覚室

🆓無料 🏠一般 📌必要(お申込みは12/9(水)から)

📍四日市市文化会館(三浜文化会館内の仮事務所)

059-354-4501(受付時間9:00～19:00)

<https://yonbun.com/ws/>

休館日:火曜日(ただし祝日の場合は開館し、翌平日閉館)

令和8年度 生涯学習事業

皇學館大学 月例文化講座

年間テーマ

神になった人々 [申込み、詳細はこちら](#) 

担当●文学部国史学科

場所●皇學館大学 431教室
時間●各日とも午後2時より
受講方法●対面(後日、オンデマンド配信)
定員●各回100名[先着順] **聴講料無料・要申込**

第7回 11月7日📅

長谷川 怜准教授

祀られた警察官たち

第8回 12月5日📅

谷口 裕信教授

義人としての田中正造イメージの形成と田中霊祠

令和9年度生 皇學館高等学校 募集要項

全日制課程

募集定員 315名(予定)

出願期間 令和8年 12月1日(火)～ 令和9年 1月5日(火)

出願手続 インターネット(WEB)での出願 ※詳細は11月中旬にHPにて公開
受験料 15,000円

入学資格 中学卒業生および
令和9年3月卒業見込みの者

入学試験

日 時	令和9年 1月27日(水) 10:00より [追試験] 令和9年 1月31日(日)
教 科	国語・数学・英語*・理科・社会〔マークシート方式〕 *英語はリスニングを含む

試験会場 【本会場】 皇學館高等学校
【津会場】 大原簿記医療観光専門学校
(津駅西口より徒歩1分)

合格発表 令和9年 2月1日(月) 17:00
※追試験合格発表も同日
※インターネット(WEB)発表…電話によるお問い合わせには、お答えできません。
※インターネット(WEB)得点開示…一般「併願」での受験者のみ開示いたします。ただし、追試験受験者には得点開示はありません。

入学手続 令和9年 2月10日(水) 15:00までに、
入学金 45,000円を納入してください。
令和9年 3月17日(水) 15:00までに、
教育充実費 250,000円を納入してください。

学 費

①入学時	教育充実費	250,000円
②入学後	授業料(月額)	37,800円(無償化)
	その他(月額)	約7,000円
	修学旅行積立(月額)	6,000円

そ の 他 推薦入学制度、特別奨学生制度があります。

通信制課程

募集定員 30名(予定)

出願期間 令和8年 12月1日(火)～ 令和9年 1月5日(火)

出願手続 インターネット(WEB)での出願 ※詳細は11月中旬にHPにて公開
受験料 15,000円

入学資格 中学卒業生および
令和9年3月卒業見込みの者

入学試験

日 時	令和9年 1月23日(土) 10:00より
教 科	国語・数学・英語*〔マークシート方式〕および面接 ※各教科は中2までの範囲 *英語はリスニングなし

試験会場 皇學館高等学校

合格発表 令和9年 1月26日(火) 17:00
※得点開示なし。

入学手続 令和9年 2月10日(水) 15:00までに、
入学金 45,000円を納入してください。
令和9年 3月17日(水) 15:00までに、
教育充実費 250,000円を納入してください。

学 費

①入学時	教育充実費	250,000円
②入学後	教育活動支援費(年額)	150,000円
	1単位履修 15,000円×単位数	
	※ただし、年額337,000円まで無償化対象	

問合せ先

皇學館高等学校 TEL 0596-22-0205(代)

第3回 オープンスクールのご案内

入試問題を知ろう!

開催日●11月8日(日)

会 場●皇學館大学記念講堂
※駐車場・駐輪場は高校スペースをご利用ください。

対 象●中学3年生および保護者

内容 8:30～9:30
受付(皇學館大学記念講堂)
9:30～11:30
●学校説明 ●入試説明 ●入試過去問解説(英語・数学)
●吹奏楽部歓迎コンサート
11:30～13:00(自由参加)
●クラブ活動見学 ●個別進学相談会(生徒、保護者)

申込期間●10月13日(火)～30日(金)

みなさんの参加をお待ちしております。なおオープンスクール等への参加は、入学試験の可否とは全く関係ありません。予定は変更する場合がありますので、事前にホームページでご確認ください。

通信制課程 入試説明会・相談会

開催日●11月8日(日) 14:00～15:30
会 場●皇學館高等学校
対 象●中学3年生および保護者
申込期間●10月13日(火)～30日(金)

参加を希望する方は右下の二次元バーコードから生徒・保護者別々に申し込んでください。

イブニング個別進学相談会Ⅱ 20組限定

保護者と一緒に参加してください

開催日●11月21日(土) 18:00～19:00
会 場●皇學館高等学校
対 象●中学3年生と保護者
申込期間●11月2日(月)～^(定員到達にて締切)

参加を希望する方は右下の二次元バーコードから生徒のみ申し込んでください。

7月18日(土)、早期に進路を検討中の中学生および保護者の皆様を対象とした「イブニング学校説明会」を開催しました。当日は、本校の学習内容や取り組み、クラブ活動、入学試験についての説明を行いました。20組限定での募集でしたが、16組の皆様にご参加いただきました。説明会後の個別進学相談会では、熱心にご相談される生徒の皆さんや保護者の姿がとても印象的でした。

オープンスクール、学校説明会・個別進学相談会
通信制課程 入試説明会・相談会
参加申し込みはこちら▶ 

第65回 皇學館大学 倉陵祭 2026 10.31 Sat. - 11.1 Sun.



有志による企画・展示・ステージ発表・アーティストライブの他にも、今年は模擬店が復活します
一人ひとりの個性豊かな蕾(つぼみ)からキャンパス内に彩りよい花を咲かせて参りますので、皆様今年の倉陵祭をお楽しみに！

倉陵祭に関する情報を随時更新 Instagramをチェック！ 問合せ・学生支援部 学生担当 TEL 0596-22-6317

彩花



高い志とチャレンジ精神をもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

向原悠斗^(高3)さんが八種競技で準優勝！

令和 8 年度全国高等学校総合体育大会「夢へ躍進 青春の夏 近畿総体2026」

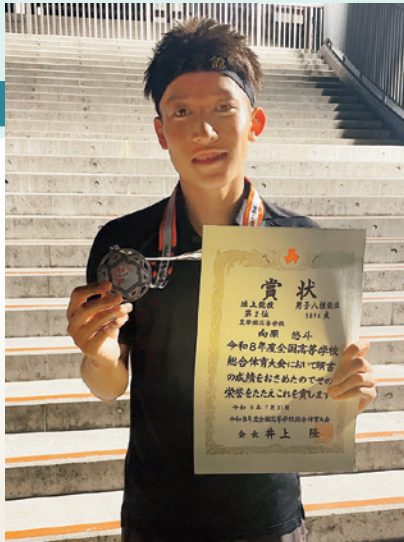
向原悠斗さんがインターハイの八種競技で5896点をマークし、準優勝を果たした。昨年の3位から順位を1つ上げたものの、見据えていたのは日本一の座。「多くの方に支えてもらいながら日本一だけをめざして練習してきたので、うれしい気持ちより悔しさの方が大きかった」と振り返る。

今大会では砲丸^{てき}投げとやり投げで自己記録を更新。昨年の課題だった投擲種目の克服に向け、冬季から重点的に取り組み、大会直前には他校の教員や外部コーチの指導も受けた。専門種目の技術練習に加え、基礎練習やロングスプリントにも力を入れ、全体のパフォーマンス向上を図ってきた。自身の強みを「アベレージが高く、どの種目でもし

っかり点を取れるところ」と分析する向原さん。全国大会で経験を積んだことで、大舞台で結果を残すには種目ごとの出来に一喜一憂せず、気持ちを切り替えて目の前の種目に集中することが重要だと実感したという。

競技生活を通じて、練習への向き合い方も変化した。与えられたメニューをこなすだけでなく、その狙いや意味を考えて自分のものにする主体的な姿勢を身に付けた。胸に刻み続けたのは、コーチから贈られた「一瞬の苦しみから逃げたら一生の後悔」との言葉だ。

大学では十種競技に挑戦する。「幅広く練習を積み、大学こそ日本一になる」。新たな舞台で、さらなる高みをめざす。



「狙った大会で実力を発揮できるようになってきた」と話す向原さん

全国大会結果

全国高等学校総合体育大会	
空 手 競 技	小 川 瑞 稀(2年) 個人組手 1回戦出場
バドミントン部	森 積 喜(3年) 学校対抗 1回戦、シングルス 1回戦、ダブルス 2回戦出場
	山 下 晃 輝(3年) 学校対抗 1回戦、シングルス 2回戦、ダブルス 2回戦出場
	秋 山 翔(2年) 学校対抗 1回戦、ダブルス 2回戦出場
	達 暁太郎(2年) 学校対抗 1回戦出場
	水 流 暖 翔(2年) 学校対抗 1回戦出場
	井 伊 亜 藍(1年) 学校対抗 1回戦出場
	内 山 涉 夢(1年) 学校対抗 1回戦、ダブルス 2回戦出場
	松 本 悠(1年) 学校対抗 1回戦出場
	大 石 乃 愛(3年) 学校対抗 1・2回戦、ダブルス 1回戦出場
	奥 村 紗 羽(3年) 学校対抗 1・2回戦、ダブルス 1回戦出場
	米 澤 萌 衣(3年) 学校対抗 1・2回戦、シングルス 2回戦、ダブルス 1回戦出場
	谷 田 楓 華(2年) 学校対抗 1・2回戦、ダブルス 1回戦出場
	西 岡 海 音(1年) 学校対抗 1・2回戦出場
	林 音 羽(1年) 学校対抗 1・2回戦出場
	眞 泉 果 央(1年) 学校対抗 1・2回戦、シングルス 2回戦出場
	溝 口 恵 望(1年) 学校対抗 1・2回戦出場
ボウリング競技	澤 田 枇 奈(2年) 出場
陸上競技部	向 原 悠 斗(3年) 八種競技準優勝
	早 水 凪(3年) 三段跳決勝

幸村杯全国高等学校男子なぎなた選手権大会

薙 刀 部	西 田 誌 音(3年) 出場
	増 田 輝(3年) 出場

全国高校囲碁選手権大会

囲碁将棋部	伊 東 亜里紗(3年) 団体・個人戦出場
	中 西 美 宇(3年) 団体戦出場
	澤 田 枇 奈(2年) 団体戦出場

第50回 全国高等学校総合文化祭

写 真 部	浦 田 佳 希(3年) 出品
囲碁将棋部	伊 東 亜里紗(3年) 出場

吉富心音^(高1)さんが大正琴で三重県文化新人賞受賞

大正琴の演奏活動に取り組む吉富心音さんが、三重県文化新人賞を受賞した。これまで文部科学大臣賞を4年連続で受賞しており、今回の受賞に「まさか自分がいただけのとは思っていなかった」と驚きながらも、これまで支えてくれた周囲への感謝を語る。

大正琴との出会いは幼少期。祖母が演奏する姿を身近に見て育ち、いつか触れてみたいと思っていたところ、度会町教育委員会主催の「度会チャレンジキッズ教室」に大正琴の講座があることを知った。同講座を小学2年生のときに受けたことをきっかけに本格的に習い始め、音を出す楽しさに魅了された。

演奏では、まず曲をよく知ることを大切にしている。さまざまな演奏を聴いて曲の雰囲気や特徴をつかみ、自分なりにイメージを膨らませながら練習。楽譜通りに弾くだけでなく、繰り返し練習して曲を自分のものにしていく。思うように弾けないときは好きな音楽を聴いて気持ちを切り替え、練習を続けてきた。

大正琴を通して学んだのは、努力を続ける大切さだ。すぐに結果が出なくても、繰り返すことで少しずつできるようになる経験が、学校生活にも生かされている。何事も「まずは、やってみよう」と前向きに考えられるようになったという。

理想とするのはきれいで優しく、聴く人の心に残る音色。同じ曲でもピックの角度や強さによって音色が変わる奥深さを楽しみながら、一音一音を丁寧に重ねる。大正琴の魅力を多くの人に伝え、聴く人に感動を届けられる演奏を志している。



度会町在住で新人賞受賞は初

部活動・同好会ファイル No.3

本学では現在41のクラブと2つの同好会が活動しています。本コーナーでは注目の部活動・同好会を取り上げ、ご紹介します。

考古学研究会

Q 普段どのような活動をしていますか。
過去の調査で出土した遺物のデータ化や修復、保管している遺物の解説を交えた勉強会などに取り組んでいます。学外指導者の岡田登先生（本学名誉教授）から指導を受けながら、実践的に学んでいます。

Q 今回、多気町で発掘調査を行ったそうですね。
三重県多気郡多気町の逢鹿瀬寺跡で、土地所有者の作業中に瓦の破片などが出土したことを受け、遺物の回収と土坑の実測を行いました。



蓮の花文様の丸瓦(左)と焼けた瓦の破片。どちらも奈良時代のもの

Q 多気町の発掘現場ではどのような作業を行いましたか。
土坑内や排土に含まれる遺物の回収を中心に行いました。前日の雨の影響で、土坑を覆うブルーシートを剥がすのにも苦労しましたが、遺物が次々出てくるのを目にして、とてもうれしくなりました。

Q 印象に残った出土品や発見はありましたか。
ほぼ完形の軒丸瓦が出土したことです。蓮の文様が施され、とてもきれいな状態でした。また、赤く変色した瓦の破片も多く出土しました。瓦が焼けたことを示すもので、逢鹿瀬寺の末期の様子を考える上で重要な資料になる可能性があります。

Q 遺物から歴史を読み解く面白さとは。
逢鹿瀬寺は伊勢の神宮の神宮寺として奈良時代に建立され、短期間で姿を消した「幻の寺」ともいえます。出土遺物と文献を照らし合わせ、なぜ姿を消したのか、どのような儀礼が行われていたのかを考えることに面白さを感じます。

Q 考古学に詳しくない学生でも参加できますか。
ほとんど知識がなくても大丈夫です。今回のように出土遺物に直接触れる機会もあり、遺物の管理や調査道具の使い方などを実践的に学べます。学芸員課程を履修している学生にとっても貴重な経験になります。

Q 考古学研究会の魅力と、学生へのメッセージをお願いします。
活動を通して、博物館の展示もより楽しく見られるようになります。「この道具は、こう使っていたのかな」「この土器の作り方は、部室にあるものに似ていて面白い」など、展示品の一つひとつが気になり、博物館が「宝石箱のように感じられるはず」です。継続的な参加でなくても構いません。興味があれば、ぜひ一度、気軽に活動日に足を運んでみてください。

国史学、考古学的研究手法によって伊勢を中心とした地域史を明らかにする活動を行っている。具体的に発掘調査を行い、出土採集遺物の整理、復元、図版資料化をして、調査報告書を作成する活動を行っている。

部 長 名 (監督名)	中 山 郁
部 員 数	30名
活動日時	月曜日、水曜日
活動場所	新クラブハウス棟 3 階、622教室

実 績

令和 5 年度に行った発掘調査の発掘遺物の整理、復元を主に行った。倉陵祭では過去の発掘調査の成果を展示した。

年間スケジュール
10月 倉陵祭展示発表



紹介してくれた吉田鈴太郎さん(神道2)